

実施団体	里山を愛する会
事業名	拡大する里山の放置竹林から森をまもり、森をつくる事業
事業目的、内容	<p>和歌山県の奥山の70数パーセントが杉や桧の人工林で、森はわずか20数パーセントしかなく、残された里山の森は、今、猛烈に拡大する外来種の孟宗竹、真竹、淡竹の放置竹林の侵入で、毎年大量に消え、日本の山が竹山化している。水や酸素、川と海の魚介類を育てる腐葉土は森の恵みであり、在来種の広葉樹が温暖化を止めている力は大きい。竹林だけになれば、森の機能はなくなり、私達は生きられないことから、里山の森を壊していく放置竹林を伐採整備することで森を守り、在来種の広葉樹の森を再生していく。また、森の重要性と竹の利活用を広く普及するために竹チップ作りのイベントを行った。</p> <p>・参加者 170人</p>

